

2024年度事業計画

2024年度、公益財団法人泉屋博古館は以下の各事業を行います。

1. 保存公開事業

(1) 展覧会

泉屋博古館(京都)は、改修工事のため本年度は通年休館する。ただし所蔵品のうち青銅器・仏教美術は工事に伴う一時寄託先において、展覧会を行うべく協議中(夏季)。

泉屋博古館東京は、下表のとおり企画展5展を開催する。また当館コレクションの形成の歴史や特徴を通してその価値を後世に伝える小規模企画展示(特集展示)および住友財団の助成により修復された文化財の展示をあわせて行う。

泉屋博古館東京企画展

展覧会名	期間・日数
「うるしとともに ーくらしのなかの漆芸美」 住友コレクションの漆芸品を、用いられてきたシーンごとにひもとき、漆芸のもつ魅力をご紹介する。また、近年寄贈を受けた瀬川コレクションを受贈後初公開する。	1/20 ～2/25 (32日)
「ライトアップ木島櫻谷ー四季連作大屏風と沁みる生写し」 四季それぞれの花が多彩な構図で描かれた金屏風四双を一挙展示。京都画壇の花鳥表現にも注目。 住友財団展併催：文化財維持修復助成作品	3/16～5/12 (50日)
「歌と物語の絵ー雅やかなやまと絵の世界」 古来、文学と関わりの深いやまと絵。絵巻や屏風に展開する華麗な世界を紹介する展覧会。 特集展示：黒田清輝「昔語り」	6/1～7/21 (44日)
「昭和モダン、モザイクのいろどり <small>いたやうめき</small> 板谷梅樹の世界」 近代陶芸の巨匠・板谷波山とその五男でモザイク作家の梅樹を中心に波山ファミリーの作品を紹介する展覧会。 特集展示：住友の茶道具	8/31～9/29 (26日)
「オタケ・インパクト <small>えつどう ちくは こっかん</small> 越堂・竹坡・国観、尾竹三兄弟の日本画アナキズム」 明治から昭和時代にかけて活躍した尾竹越堂・竹坡・国観の三兄弟の画業を追う展覧会。	10/19～12/15 (50日)
開館日数計	202日

展覧会費用	43,214千円
-------	----------

(2) 収集事業

当館コレクション充実のため、当館収蔵品と関連のある作品収集を継続する。近世末から近代にかけての絵画、工芸を対象とし、購入、寄託、受贈の検討を進める。本年度は、幹山伝七の花瓶、木島櫻谷の日本画、計2件の購入を実施したい。(予算1,536千円)

(3) 修復事業

以下の修復及び調査を行う。(予算合計7,167千円)

- ・洋画1件(ジャン=ポール・ローランス「マルソー将軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち」)の修復(予算5,000千円)
- ・日本絵画1件(重要文化財「佐竹本三十六歌仙絵切 源信明」)の修復
*2024年度・25年度の二カ年計画 費用総額約7,000千円(国庫・住友財団助成申請予定)
- ・青銅器1件の修復(予算467千円)
- ・仁清「唐物写十九種茶入」他の仕覆修復(予算500千円)
- ・染付大皿の修復(予算500千円)
- ・洋画額その他小修繕(予算700千円)

(4) 館蔵品管理事業

①館蔵品データベースについて早稲田システム開発のクラウド版収蔵品管理システムへの移行を進める。2024年度完成予定。

②泉屋博古館(京都)保管図書を中心に二次資料のデジタル化を進める。

③泉屋博古館(京都)改修工事にあたり、館蔵品の一部移転を安全に進める。仮移転先は館内および泉屋博古館東京収蔵庫のほか、信頼のおける外部機関も視野に入れ、移転先の保管環境整備につとめる。

2. 調査研究事業

(1) 館蔵品基礎調査研究

館活動の根幹となる館蔵品の基本的調査研究を実施する。

テーマ	期間
「茶道具の調査研究」 (森下) 館蔵の茶道具について、新収品を中心に、①付属品の再調査、②購入記録並びに茶会記との照合を行い、江戸期から大正期に至る茶道具のコレクション形成史をまとめる。	2020年度より継続
「館蔵の洋食器を中心とした近代洋食器研究」 (森下) 明治時代以降、洋食器文化の輸入により日本各地で洋食器が生産されるようになった。住友コレクションには住友家の洋館で使用された、最初期ディナーセットなどがみられる。当時の国内における洋食器の供給ならびに需要者について調査を実施。	2021年度より5年間

<p>「日本近代銅器の基礎的調査研究」（廣川・山本・竹嶋） 本年寄贈を受けた日本近代銅花器について、基礎データ取得を実施し、その特徴を把握することにより、25年度泉屋博古館東京での公開に向けて準備を進める。</p>	2023年度より2年間
<p>「1号館建築資料のアーカイブ化」（竹嶋） 1号館建築にまつわる資料の整理に着手する。建築図面のデジタル化、1号館と同じ設計者の建築作品を調査。また設計者などに聞き取り調査を実施する。調査結果に基づき、70年大阪万博にあわせて建設された遺例としてモダニズム建築史への位置付けを目指す。</p>	2022年度より2年間（継続） （本年度予算 250 千円）
<p>「館蔵書画の表装裂のデータベース作成」（実方） 館蔵書画に用いられる表装裂について、23年度展覧会成果も踏まえ、伝来や装丁者など表装の成り立ちの調査を継続し情報を集約する。</p>	2020年度より4年間（継続）
<p>「館蔵洋画の調査研究」（野地） 館蔵洋画・彫刻に関しては、河久保正名や仙波欣平など、優品が収蔵されながら見落とされてきた作家・作品が散見される。また岸田劉生など近年の研究成果を踏まえ多視点からの見直しを推進する。</p>	2020年度より5年間
<p>「館蔵日本画及び洋画の基礎研究」（椎野） 館蔵の日本画及び洋画に関して、作家研究を推進する。特に尾竹三兄弟の事績を資料から見直し、また春翠と直接交流を持ったことから、その交流を明らかにする。</p>	2020年度より5年間
<p>「美術品収集経緯研究」（全員） 継続実施している明治大正期住友家美術品収集経緯の研究について、昭和期の購入資料の検討とデータベース化を完成させる。明治～昭和の全データの統合をめざす。</p>	2015年度より8年間（継続）

（2）専門研究

館蔵品に関連する分野において、専門的研究を行い、その成果について、学会発表、紀要などの学術雑誌や図録での公表を行う。

テーマ	期間
<p>「中国先秦時期の社会と文化」（小南） 中国先秦時期（二里头文化から秦漢帝國の成立まで）の社会制度や思想文化に視点を据え、出土文物と文献資料とを相互に参照しつつ、中国的特質を具えた社会の形成について検討する。</p>	2022年度より5年間
<p>「中国近世の文芸と民衆信仰」（小南） 中国近世の民衆文芸について、文献資料と実地調査とにもとづき、民衆的な信仰と生活倫理のありかたについて探求する。現在は主として、宋代以降の壁画墓に見える孝子画像を資料とし、二十四孝観念の時代的な変貌を追求するとともに、中国近世倫理の形成について考えている。</p>	2017年度より3年間 （科研費） 2020年度より3年間 （一年延長、2024年3月迄） （科研費）

<p>「中国古代贈与儀礼の研究」（山本） 中国古代におこなわれた贈与儀礼について、古典文献に加えて新出の考古資料・文字史料も踏まえつつ、その歴史的展開と国家形成とのかかわりについて検討する。</p>	2022年度より4年間 （科研費申請予定）
---	--------------------------

(3) 他研究機関との共同調査研究

館蔵品関連分野の研究を多角的に推進するため、他研究機関との共同調査を実施する。

テーマ	期間
<p>「木島櫻谷の調査研究」（実方） 今年度は櫻谷文庫所蔵資料のうち、マクリ資料を同文庫と共同で調査実施。継続中の櫻谷宛書簡類整理のまとめをめざす。また、櫻谷収集中国書画の調査研究を関コレ研と進める。</p>	2009年度より継続
<p>「中国古代青銅器製作技術の研究」（山本・廣川） 当館所蔵青銅器及び台湾中央研究院歴史語言研究所所蔵青銅器および鑄型を調査対象として、殷代から戦国時代にかけての青銅彝器製作技術の解明を目的とした研究を、歴史語言研究所、芦屋釜の里と共同で実施する。24年度はこれまでの研究成果をもとにした鑄造実験およびその状況を記録する4K動画撮影を実施する。</p>	2020年度より5年間 （海外調査に関わる費用は科研費を充当） （本年度予算400千円）
<p>「中国青銅器の高精度三次元計測データの解析」（廣川） 富山大学芸術学部と共同で実施している青銅器の三次元計測データについて、断面形状および全体厚偏差分布の解析を実施する。24年度は主に青銅酒器について解析を進める。</p>	2020年度より4年間（継続） 富山大学研究代表科研課題の分担研究
<p>「日本茶道文化史における中国金工品の受容と展開」 （山本） 日本中近世の茶道具のなかには、その淵源を中国青銅器にまで辿れるものが少なくない。これまで茶道文化史において正当な位置づけがなされていない金工品を中心に実見調査等を行い、唐物受容の新たな一側面を探っていく。茶道資料館・芦屋釜の里との共同調査研究。</p>	2020年度より7年間 研究助成金申請検討中（2021年度より三者協定締結） （本年度予算400千円）
<p>「近代染織史の基礎資料研究」（森下） 館蔵の染織作品を基本資料として、近代の染織品における様式変遷ならびに技法を比較する。東京文化財研究所無形文化遺産部と共同研究を行う。</p>	2020年度より5年間（2015年より継続）
<p>「展覧会芸術研究」（椎野） 近代日本画における主題選択や表現様式を変容させた展覧会の制度に注目し、同時代資料から「展覧会芸術」という言葉の使用範囲と用法を探る。本年は2023年度に開催した展覧会を踏まえ、展覧会芸術と対置される「床の間芸術」について論文を執筆予定。</p>	2020年度より5年間

<p>「古代東アジアの祥瑞と王権—漢～唐代成立の瑞獣画像をめぐる学際的研究—」（山本） 東アジア古代の王権と密接な関係を有する祥瑞の図像のうち、漢唐間に成立した瑞獣に焦点を当て、学際的アプローチによってその歴史的展開を明らかにする。</p>	<p>2022年度より4年間 二松学舎大学研究代表課題の分担研究</p>
<p>「図像・出土器物・文献資料による古代東アジアにおける饗宴システムの復元と比較研究」（山本） 東アジア古代国家の成立と深く関わる饗宴システムについて、出土資料・文字史料の両面からその成立・展開過程を追い、東アジア世界へ拡散する様相を広域的な比較検討によって明らかにする。</p>	<p>2022年度より4年間 大手前大学研究代表課題の分担研究</p>
<p>「吉田ふじを基礎研究」（椎野） 洋画家・吉田博の妻であり、女流洋画家の先駆けでもある吉田ふじをについて、遺族のもとに遺された基礎資料の整理を行い、画業とその史的位置について明らかにする。</p>	<p>2023年度より5年間 東京文化財研究所の研究員と合同研究</p>

3. 教育・広報普及活動

大学教育への協力事業として非常勤講師出講および見学受入等を行う。さらに社会教育事業の一環としてミュージアムボランティア養成研修を実施する。また展覧会や研究活動をより多くの方に理解して頂くために、関連書籍の刊行および各種講座、講演会、シンポジウム、ワークショップなどを開催する。

内容
<p>(1) SNS、HPを活用した広報活動 Facebook・X（旧Twitter）・Instagramの各SNSの特長を活かし、イベント案内等をスピーディーに告知し、展覧会や美術館の魅力をビジュアルで配信する。またウェブサイトも活用し、各種情報を早期に発信する。</p>
<p>(2) 講演会・トークイベントの開催 【京都】休館中の発信施策として、京博連や京都新聞等の外部組織と連携し連続講座やリモート講演会を実施する。 【東京】展覧会関連の講演会・トークイベントを開催するほか、継続イベントとして連続講座“アートWith”を開催する。また学芸員によるスライドトークを展覧会毎に2～4回程度開催する。</p>
<p>(3) その他のイベントの開催 【東京】ワークショップ、コンサート等、各種イベントを企画し、開催する。</p>
<p>(4) 青銅器解説ボランティアの養成 【京都】ボランティア解説員のレベル維持・研鑽のため、研修を年2回程度開催する。</p>
<p>(5) 青銅器鑑賞コンテンツの制作 【京都】泉屋博古館（京都）改修後に向けて、3Dデータ、VR画像を利用した双方向体験型プログラムを開発する。</p>

<p>(6) 大学への出講 【京都】山本（立命館大学、半期） 【東京】野地（成城大学、通期）</p>
<p>(7) 近隣美術館等との連携 【東京】「港区ミュージアムネットワーク」および「ぐるっとパス 2024」への継続加盟。ARK Hills Music Week への参加。近隣館との年間パスポート相互割引を継続実施。</p>
<p>(8) 紀要・図録等の発行 ①『泉屋博古館紀要』第40巻 500部（表紙等仕様のリニューアル検討） ②『板谷梅樹展』図録 1,200部のうち700部買取（2024年4月） ③『オタケ・インパクト展』図録 2,000部</p>
<p>(9) ミュージアムグッズの開発・制作 【京都】リニューアルオープンに合わせ、ミュージアムショップにて販売する館蔵作品等をモチーフとしたグッズの開発・制作を行い、来館者サービス向上に繋げる。</p>

4. 施設への対応

項目	内容	予算(千円)
泉屋博古館（京都）改修工事	<p>築50年を経た泉屋博古館（京都）について、70年代を代表する建築として評価の高い青銅器館の永続的な建物保持を目指しながら、大阪・関西万博が開催される2025年春を目途に館全般の老朽化対策、展示室増設など来館者対応の改善および迎賓機能の強化、収蔵庫棟新設による美術工芸品の収蔵機能改善を実施する。</p> <p>2024年2月着工、2025年3月竣工予定。</p>	<p>2,250,000 (2024～25年)</p>

以上

収支予算書

2024年1月1日から2024年12月31日まで

単位:円

科 目	2024年度	2023年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	44,000,000	44,000,000	0
特定資産運用益	23,300,000	18,000,000	5,300,000
入場料	26,720,000	31,360,000	-4,640,000
事業収益	11,530,000	38,360,000	-26,830,000
受取賃料	4,800,000	4,625,000	175,000
受取補助金	8,443,000	10,630,000	-2,187,000
受取寄附金	1,740,000,000	289,000,000	1,451,000,000
事業活動収益計	1,858,793,000	435,975,000	1,422,818,000
(2) 経常費用			
事業費			
展覧会費	43,214,000	94,460,000	-51,246,000
美術品修繕費	7,167,000	9,437,000	-2,270,000
調査研究費	14,885,000	10,973,000	3,912,000
広告宣伝費	12,480,000	15,000,000	-2,520,000
給料手当	91,330,000	86,750,000	4,580,000
雑給	11,080,000	13,365,000	-2,285,000
旅費交通費	6,136,000	6,812,000	-676,000
通信運搬費	1,700,000	1,750,000	-50,000
光熱水料費	11,900,000	12,870,000	-970,000
消耗品費	5,345,000	5,275,000	70,000
保守費	20,290,000	22,900,000	-2,610,000
賃借料	28,734,000	14,443,000	14,291,000
委託費	10,485,000	10,335,000	150,000
改修工事関連費用	30,000,000	22,000,000	8,000,000
租税公課	2,245,000	2,000,000	245,000
雑費	2,078,000	837,000	1,241,000
特定資産減価償却費	32,000	32,000	0
その他固定資産減価償却費	82,950,000	83,500,000	-550,000
事業費計	382,051,000	412,739,000	-30,688,000
管理費			
給料手当	45,663,000	43,381,000	2,282,000
旅費交通費	3,795,000	3,380,000	415,000
通信運搬費	1,732,000	1,732,000	0
光熱水料費	5,950,000	6,430,000	-480,000
消耗品費	1,420,000	1,360,000	60,000
保守費	10,149,000	11,455,000	-1,306,000
賃借料	1,167,000	15,286,000	-14,119,000
委託費	3,500,000	3,500,000	0
雑費	3,502,000	3,152,000	350,000
その他固定資産減価償却費	6,500,000	6,500,000	0
管理費計	83,378,000	96,176,000	-12,798,000
経常費用計	465,429,000	508,915,000	-43,486,000
評価損益等調整前当期経常増減額	1,393,364,000	-72,940,000	1,466,304,000
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
当期経常増減額	1,393,364,000	-72,940,000	1,466,304,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
有価証券売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
有価証券売却損	0	0	0
除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,393,364,000	-72,940,000	1,466,304,000
一般正味財産期首残高	7,152,119,061	7,179,012,083	-26,893,022
一般正味財産期末残高	8,545,483,061	7,106,072,083	1,439,410,978
II. 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	-32,000	32,000
当期指定正味財産増減額	0	-32,000	32,000
指定正味財産期首残高	6,461,147,463	6,417,448,215	43,699,248
指定正味財産期末残高	6,461,147,463	6,417,416,215	43,731,248
III. 正味財産期末残高	15,006,630,524	13,523,488,298	1,483,142,226

収支予算書内訳書

2024年1月1日から2024年12月31日まで

単位:円

科 目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	2024年度予算額
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	44,000,000	0	0	44,000,000
特定資産運用益	23,300,000	0	0	23,300,000
入場料	26,720,000	0	0	26,720,000
事業収益	11,530,000	0	0	11,530,000
受取賃料	0	4,800,000	0	4,800,000
雑収益	0	0	0	0
受取補助金	8,443,000	0	0	8,443,000
受取寄附金 寄 付 金	1,663,227,000	0	76,773,000	1,740,000,000
事業活動収益計	1,777,220,000	4,800,000	76,773,000	1,858,793,000
(2) 経常費用				
事業費				
展 覧 会 費	43,214,000	-	-	43,214,000
美 術 品 修 繕 費	7,167,000	-	-	7,167,000
調 査 研 究 費	14,885,000	-	-	14,885,000
広 告 宣 伝 費	12,480,000	-	-	12,480,000
給 料 手 当	91,330,000	-	-	91,330,000
雑 給	11,080,000	-	-	11,080,000
旅 費 交 通 費	6,136,000	-	-	6,136,000
通 信 運 搬 費	1,700,000	-	-	1,700,000
光 熱 水 料 費	11,900,000	-	-	11,900,000
消 耗 品 費	5,345,000	-	-	5,345,000
保 守 費	20,290,000	-	-	20,290,000
賃 借 料	28,734,000	-	-	28,734,000
委 託 費	10,485,000	-	-	10,485,000
改 修 工 事 関 連 費 用	30,000,000	-	-	30,000,000
租 税 公 課	0	2,245,000	-	2,245,000
雑 費	2,078,000	-	-	2,078,000
特 定 資 産 減 価 償 却 費	32,000	-	-	32,000
そ の 他 固 定 資 産 減 価 償 却 費	80,500,000	2,450,000	-	82,950,000
事業費計	377,356,000	4,695,000	-	382,051,000
管理費				
給 料 手 当	-	105,000	45,558,000	45,663,000
旅 費 交 通 費	-	0	3,795,000	3,795,000
通 信 運 搬 費	-	0	1,732,000	1,732,000
光 熱 水 料 費	-	0	5,950,000	5,950,000
消 耗 品 費	-	0	1,420,000	1,420,000
保 守 費	-	0	10,149,000	10,149,000
賃 借 料	-	0	1,167,000	1,167,000
委 託 費	-	0	3,500,000	3,500,000
雑 費	-	0	3,502,000	3,502,000
そ の 他 固 定 資 産 減 価 償 却 費	-	0	6,500,000	6,500,000
管理費計	0	105,000	83,273,000	83,378,000
経常費用計	377,356,000	4,800,000	83,273,000	465,429,000
評価損益等調整前当期経常増減額	1,399,864,000	0	-6,500,000	1,393,364,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0
当期経常増減額	1,399,864,000	0	-6,500,000	1,393,364,000
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
有価証券売却益	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
有価証券売却損	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,399,864,000	0	-6,500,000	1,393,364,000
一般正味財産期首残高	7,063,823,727	-15,833	88,311,167	7,152,119,061
一般正味財産期末残高	8,463,687,727	-15,833	81,811,167	8,545,483,061
II. 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	6,461,147,463	0	0	6,461,147,463
指定正味財産期末残高	6,461,147,463	0	0	6,461,147,463
III. 正味財産期末残高	14,924,835,190	-15,833	81,811,167	15,006,630,524

2023年12月5日

資金調達及び設備投資の見込み
(2024年1月1日～2024年12月31日)

(1) 資金調達の見込みについて
借入予定 なし

(2) 設備投資の見込みについて

設備投資の内容	支出の予定額(円)	資金調達方法 又は取得資金の用途
泉屋博古館(京都)改修工事		
設計・申請業務(建設仮勘定)	49,500,000	受取寄付金
建築・電気・空調衛生工事(建設仮勘定)	1,420,500,000	受取寄付金
計	1,470,000,000	

以上